平田　要

一、第3次ごみ減量計画から ごみ減量の取組み
二、前立腺がん早期発見のために

ごみ減量の取組みについて

問 資源紙類等の集団回収の現状と課題について問う。

答 令和3年度実績で回収量181トン（29団体）である。課題として人口減少や高齢化による担い手不足が挙げられる。

問 集団回収の効果を問う。

答 集団回収の資源ごみ回収量と町の資源ごみ回収量では集団回収での量の方が多くなっている。効果的に取り組んでいただいている。

問 集団回収の登録団体を増やすための働きかけについて問う。

答 取組みには、活動的に難しい団体に対して支援できることも含め検討したいと考えている。

問 資源紙類等を公共施設等で受け入れられる拠点回収について問う。

答 ごみ減量化を目標として取り組んでいる。全体的なところから検討していきたい。

問 生活実態・環境に合った少量ごみ処理券に交換（現行の2倍）できる制度について問う。

答 45ℓのごみ袋を持ち歩きするのは少し重たいとの意見を聞いている。高齢化等により、ごみ排出への負担が増えてきているなども踏まえ、第3次ごみ減量計画期間中に再検討する。

前立腺がん早期発見のため

問 集団検診等で近隣市町の前立腺がん検査の実施状況について問う。

答 北摂自治体で実施していないのは能勢町・豊能町となっている。

問 集団検診時等の血液検査時に希望される方には、前立腺がん検査（PSA検査）を行うことについて問う。

答 国において対策型検診として推奨されないとされていることから、現時点では国の指針に基づき検査を実施していく。（PSA：前立腺の細胞から分泌されるたんぱく質）

一般質問

中西　顕治

農業経営支援の課題

問 コロナ感染症の世界的な蔓延、ロシア、ウクライナでの戦争から世界各国の食糧状況が変化し、食料高騰、農業生産資材の不足、高騰が報じられている。本町において持続的な営農を支えるための方策を問う。

答 本年度の町政運営方針で、里山未来都市として暮らしに必要な資源を地域で自給し、里山本来の資源が持続的に循環利用できるまちをつくることを掲げた。そのためには農地を主体とする農空間を保全しなければならない。担い手となる農家や集落営農組織に補助金等を交付することで営農継続支援を引き続き行うことと、耕作放棄地の受皿として公的な担い手である農業公社等の設立が必要であると考える。

問 営農継続ができない、担い手が確保できない要因をどう認識するか。

答 本町での平均水田面積（50ａ）では資産償却も含めれば赤字になる。従来の様に使命感で維持できる状況にない。

問 農業公社で担い手の育成も視野に入れてはどうか。

答 公社の形態も多様で、農作業の受委託を行うところもある。担い手の育成面でも年齢にかかわらず、工夫して耕作経営をしていくということが一番大事だと考える。生産した農産物の販売については観光物産センターの機能を活用する方向で考えている。この農空間、農地を守るということは共通の課題だと考えているので、意見を集約して計画していく。